論　文

大学硬式野球競技者のスポーツ経験がライフスキルに及ぼす影響

○岡崎　祐介*1　井川　貴裕*1　福田　一儀*1

キーワード：スポーツ経験、ライフスキル、野球、部活動、大学生

1　はじめに

ライフスキルとは、WHOによると[1]、対人場面で展開される社会的スキルを内包した心理社会的能力と位置づけられ、「日常生活で生じるさまざまな問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力」等と定義されている。川畑は[2]、ライフスキルは現在の教育現場において、21世紀の教育の基本目標である「生きる力」にきわめて近い概念であると述べている。

ライフスキルに関する研究は、これまでにも様々なものが行われており、体育やスポーツの分野でも活発に行われている。Murakami et al.は[3]、高校生と大学生アスリートを「一般レベル」と「ナショナルレベル」とに分け、その2群をもとにライフスキル獲得レベルの比較を行っている。その結果、対象としたスキルの大半において、「ナショナルレベル」の方が獲得レベルが有意に高いことを明らかにしている。また、清水・島本は[4]、大学に入学した男子レスリング競技者を対象として、ライフスキルと競技成績との関連を検討している。その結果、「目標設定」や「考える力」、「最善の努力」というライフスキルが競技成績と正の関連があることを示している。これらの先行研究における結果は、アスリートにおいてライフスキルの獲得と競技成績とが正の関連がある可能性を示していると言える。

また、島本・米川は[5]、スポーツの場面における経験(スポーツ経験)がライフスキルの獲得に密接に結びついていると推測している。スポーツを通じて競技スキルのみならずライフスキルをも獲得するためには、ただ活動に参加するだけでは不十分であり、そこでどのような経験を積み重ねたかが肝要と言えると述べている。

これまでにも、スポーツ経験がライフスキルの獲得に与える影響の一般的傾向は検討されているが、特定の競技種目を対象とした検討は未だ少ないのが現状である。

そこで本研究では、スポーツ場面におけるライフスキルに関する研究でもその数が少ない集団種目に焦点を当て、その中でも大学硬式野球競技者を対象として、個人の役職やポジション等の経験が競技者のライフスキル獲得にどのような影響を与えているのかを検討することを目的とした。

2　調査対象及び研究の方法

調査は、2016年6月～8月にかけて、山口県内の4大学硬式野球部員を対象とし、調査票を用いて実施した。調査票に不備なく回答した141名(A大学53名、B大学37名、C大学22名、D大学29名)を分析の対象とした。(有効回答率90.9%)

なお、上記の4大学は中国地区大学野球連盟に登録しており、所属リーグはそれぞれ1部リーグ2校(A・B大学)と2部リーグ2校(C・D大学)である。

3　調査内容

調査項目には、独自に考案した基本的属性及び競技経験を問う項目とともに島本ほかが作成した「大学生アスリート用ライフスキル評価尺度」を用いた。[6]

まず、調査対象者の基本的属性及び競技経験を問う項目を表1にまとめた。競技レベルについては、チー

*1　至誠館大学　ライフデザイン学部

ム内において“レギュラー”、“準レギュラー”、“補欠”のいずれに該当していたかを平成 28 年度中国地区大学野球春季リーグ戦を基準とし、対象者の自己評定で行った。

表 1　調査対象者の基本的属性及び競技経験

基本的属性	大学名、学年、性別
競技経験	経験年数、役職経験 ポジション、競技レベル

次に、「大学生アスリート用ライフスキル評価尺度」は、大学生アスリートのデータをもとに開発されたもので、優秀な競技成績を達成した一流のスポーツ指導者たちの実践的な経験をもとに見出された、アスリートに求められるライフスキルを評価することができる。本尺度は『ストレスマネジメント』から『体調管理』までの 10 の下位尺度で構成され､各下位尺度には概ね満足できる信頼性、妥当性が確保されていることが示されている。また、各々の下位尺度は 4 項目から構成され(表 2)、項目の評定は〈1:ぜんぜん当てはまらない、2:あまり当てはまらない、3:わりと当てはまる、4:とても当てはまる〉の 4 段階の自己評定で行い、評定値が高いほどライフスキルの獲得レベルが高いと解釈される。逆転項目の評定値は、当該側面の下位尺度得点算出の際に反転処理された。

4　統計処理

統計処理には､SPSS Statics Base Ver23 を用いた。ライフスキルと各項目との関連については、所属リーグ(1 部と 2 部)、役職経験(現在までのキャプテンと副キャプテンの経験の有無)、大学、学年、ポジション(投手、捕手、内野手、外野手)、競技レベル(レギュラー、準レギュラー、補欠)をそれぞれ抽出し、各項目におけるライフスキル各側面の平均値差を、所属リーグと役職経験は独立したサンプルの t 検定、大学、学年、ポジション、競技レベルについては一元配置分散分析により検証した。主効果が認められた際には、Tukey の HSD 法による多重比較を行った。いずれの場合も危険率 5%未満をもって有意とした。

表 2　大学生アスリート用ライフスキル評価尺度

ストレスマネジメント	q 1　悩み事はきちんと話を聞いてくれる人に打ち明けている
	q 11　悩み事は相談相手に素直に打ち明けている
	q 21　悩み事を一人で解決できない時には、誰かに相談するようにしている
	q 31　悩み事は包み隠さず相談相手に打ち明けるようにしている
目標設定	q 2　一週間や一か月、半年単位と、ある期間ごとに目標を立てている
	q 12　目標は考えるだけでなく、紙に書き込むようにしている
	q 22　目標を達成するための計画を具体的に立てている
	q 32　強く意識しつづけるために、目標をノートやスケジュール帳に書き込んでいる
考える力	q 3　問題や課題への解決方法を、自分自身で見出すことができる
	q 13　成功や失敗の原因を自分なりに分析してみることができる
	q 23　あれこれと指示を受けなくても、次にどうすればよいか考えることができる
	q 33　周囲の人の考えをもとに、自分なりの答えを導き出すことができる
感謝する心	q 4　「ありがとう」の気持ちを素直に表現することができる
	q 14　お礼の言葉は、はっきりと声に出して伝えている
	q 24　家族や親しい友人であっても、感謝の気持ちはきちんと伝えている
	q 34　自分のことを支えてくれる人への感謝の気持ちを、いつも胸に留めている
コミュニケーション	q 5　チームのメンバーとは誰とでもコミュニケーションがとれている
	q 15　同学年だけでなく、先輩や後輩、指導者ともうまく付き合っている
	q 25　チームのメンバーとは、プライベートも含め幅広く交流するようにしている
	q 35　チームのメンバーの前では本当の自分を表現することができている
礼儀・マナー	q 6　対戦相手や審判に失礼になるようなことはしない
	q 16　反則されても仕返しするようなことはしない
	q 26　感情的な挑発行為や言動は行わない
	q 36　試合中に悪質なヤジを飛ばすようなことはしない
最善の努力	q 7　目標達成に向けて、一歩一歩着実に努力していくことができる
	q 17　単調な作業の繰り返しでも、地道に取り組むことができる
	q 27　なかなか周囲に認められなくても、辛抱強く努力しつづけることができる
	q 37　なかなか成果が出ない時でも、自分を信じて努力しつづけることができる
責任ある行動	q 8　同じような失敗を二度繰り返さないようにしている
	q 18　ここぞという場面では、持っている力を全部出し切るようにしている
	q 28　失敗から得た教訓を今後に活かしている
	q 38　失敗をした時には、すぐにその分を取り返そうと努力する
謙虚な心	q 9　たとえほめられたとしても、いつまでもその事で浮かれることはない
	q 19　いつも自分が絶対に正しいとは思わないようにしている
	q 29　過去の栄光や成功にいつまでもとらわれないようにしている
	q 39　調子に乗りそうな時でも、その気持ちをうまく抑えている
体調管理	q 10　用もないのに夜更かしをしている（R）
	q 20　食事は自分に必要な栄養素を考えながら摂取している
	q 30　適度な睡眠をとり、次の日に疲れを残さないようにしている
	q 40　同じような物ばかり食べていて、食生活が偏食気味である（R）

注1）R：逆転項目
注2）下位尺度名右の項目番号は本研究における調査票で使用したもの

5　結果

1）所属リーグとライフスキル各側面の比較

表 3 は、回答者の所属するリーグとライフスキル各側面との比較を示したものである。表 3 の結果から、『責任ある行動』について、1 部リーグ所属者の平均値は 12.63±2.01 であったのと比較し、2 部リーグ所属者は 11.90±2.51 と 1 部リーグ所属者が 2 部リーグ所属者よりも高い傾向があった。($t=1.90$、$p<0.10$) 一方その他の側面についても 1 部リーグ所属者と 2 部リーグ所属者の平均値の比較において有意な差は認められなかった。

表３　所属リーグとライフスキル各側面の比較

		n	平均値	SD	t値	
ストレスマネジメント	1部リーグ	90	11.30	2.55	0.67	n.s.
	2部リーグ	51	11.00	2.60		
目標設定	1部リーグ	90	9.88	2.44	−0.52	n.s.
	2部リーグ	51	10.10	2.39		
考える力	1部リーグ	90	11.44	1.92	−1.32	n.s.
	2部リーグ	51	11.92	2.31		
感謝する心	1部リーグ	90	13.27	2.01	0.72	n.s.
	2部リーグ	51	13.02	1.88		
コミュニケーション	1部リーグ	90	12.20	2.27	0.75	n.s.
	2部リーグ	51	11.90	2.27		
礼儀・マナー	1部リーグ	90	12.78	2.31	1.04	n.s.
	2部リーグ	51	12.37	2.08		
最善の努力	1部リーグ	90	12.09	2.11	0.99	n.s.
	2部リーグ	51	11.69	2.64		
責任ある行動	1部リーグ	90	12.63	2.01	1.90	n.s.
	2部リーグ	51	11.90	2.51		
謙虚な心	1部リーグ	90	12.13	2.15	0.69	n.s.
	2部リーグ	51	11.88	1.95		
体調管理	1部リーグ	90	9.88	2.16	−1.49	n.s.
	2部リーグ	51	10.43	2.03		

２）役職経験の有無とライフスキル各側面の比較

表４は、回答者の役職経験の有無とライフスキル各側面との比較を示したものである。表４に示すように、『コミュニケーション』（役職経験者：12.51±2.29、役職未経験者：11.53±2.11、$p<0.05$）、『最善の努力』（役職経験者：12.47±2.21、役職未経験者：11.23±2.28、$p<0.01$）、『責任ある行動』（役職経験者：12.80±2.16、役職未経験者：11.78±2.19、$p<0.01$）、『謙虚な心』（役職経験者：12.40±2.02、役職未経験者：11.57±2.08、$p<0.05$）において、役職経験者が未経験者よりも有意に高い値を示した。

表４　役職経験の有無とライフスキル各側面の比較

		n	平均値	SD	t値	
ストレスマネジメント	役職経験者	81	11.44	2.60	1.37	n.s.
	役職未経験者	60	10.85	2.49		
目標設定	役職経験者	81	10.16	2.32	1.16	n.s.
	役職未経験者	60	9.68	2.53		
考える力	役職経験者	81	11.81	2.19	1.32	n.s.
	役職未経験者	60	11.35	1.89		
感謝する心	役職経験者	81	13.41	1.98	1.63	n.s.
	役職未経験者	60	12.87	1.91		
コミュニケーション	役職経験者	81	12.51	2.29	2.58	*
	役職未経験者	60	11.53	2.11		
礼儀・マナー	役職経験者	81	12.80	2.31	1.06	n.s.
	役職未経験者	60	12.40	2.11		
最善の努力	役職経験者	81	12.47	2.21	3.24	**
	役職未経験者	60	11.23	2.28		
責任ある行動	役職経験者	81	12.80	2.16	2.76	**
	役職未経験者	60	11.78	2.19		
謙虚な心	役職経験者	81	12.40	2.02	2.38	*
	役職未経験者	60	11.57	2.08		
体調管理	役職経験者	81	10.30	2.31	1.42	n.s.
	役職未経験者	60	9.78	1.83		

*p<.05　**p<.01

３）大学とライフスキル各側面の比較

表５は、回答者の所属する大学とライフスキル各側面との比較を示したものである。表５に示すように、ライフスキル各側面における大学間の平均値の比較において有意な差は認められなかった。

４）学年とライフスキル各側面の比較

表６は、回答者の学年とライフスキル各側面との比較を示したものである。表６に示すように、『考える力』、『感謝する心』、『最善の努力』、『責任ある行動』において主効果が認められた。多重比較を行った結果、『感謝する心』を除いた３側面では、いずれも４年生が１年生、２年生、３年生よりも有意に高い値であることが示された。一方、『感謝する心』については、４年生が２年生と３年生よりも有意に高い値であることが示されたが、１年生との間に有意な差は認められなかった。なお、平均値のみに着目すると、２年生の値に低い傾向があり、３年生、４年生と学年が上がるに従って、値が上昇する傾向がみてとれた。

５）ポジションとライフスキル各側面の比較

表７は、回答者のポジションとライフスキル各側面との比較を示したものである。表７に示すように、ライフスキル各側面におけるポジション間の平均値の比較に有意な差は認められなかった。

６）競技レベルとライフスキル各側面の比較

表８は、回答者の競技レベルとライフスキル各側面との比較を示したものである。表８に示すように、『目標設定』と『考える力』において主効果が認められた。多重比較を行った結果、『目標設定』では準レギュラーが補欠よりも有意に高い値を示した。また、『考える力』では、レギュラーと準レギュラーが補欠よりも有意に高い値を示した。

表5　大学とライフスキル各側面の比較

	1：A大学 (n＝53)		2：B大学 (n＝37)		3：C大学 (n＝22)		4：D大学 (n＝29)		F値	多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
ストレスマネジメント	11.47	2.45	11.05	2.70	11.14	2.21	10.90	2.90	0.37	
目標設定	10.06	2.43	9.62	2.47	9.68	2.48	10.41	2.31	0.71	
考える力	11.49	1.75	11.38	2.17	11.55	2.02	12.21	2.50	1.02	
感謝する心	13.36	1.81	13.14	2.29	13.00	1.54	13.03	2.13	0.26	
コミュニケーション	12.45	1.68	11.84	2.89	11.59	1.65	12.14	2.64	0.97	
礼儀・マナー	13.08	1.92	12.35	2.74	12.86	1.49	12.00	2.39	1.78	
最善の努力	12.17	1.87	11.97	2.44	12.00	1.98	11.45	3.07	0.61	
責任ある行動	12.91	1.77	12.24	2.28	12.05	1.76	11.79	2.98	1.91	
謙虚な心	12.25	1.63	11.97	2.75	12.14	1.46	11.69	2.25	0.47	
体調管理	9.81	1.94	9.97	2.70	10.41	1.74	10.45	2.26	0.78	

表6　学年とライフスキル各側面の比較

	1：1年生 (n＝46)		2：2年生 (n＝43)		3：3年生 (n＝35)		4：4年生 (n＝17)		F値	多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
ストレスマネジメント	11.26	2.25	11.28	2.44	10.83	2.90	11.53	2.56	0.36	
目標設定	9.26	2.41	10.42	1.99	10.00	2.04	10.59	3.61	2.25	
考える力	11.09	1.74	11.30	2.08	11.94	2.18	13.18	1.94	5.27**	4>1、4>2、4>3
感謝する心	13.17	1.70	12.81	2.11	12.94	1.91	14.59	1.87	3.81*	4>2、4>3
コミュニケーション	11.89	1.83	11.98	2.31	12.43	2.09	12.24	3.40	0.43	
礼儀・マナー	12.96	1.81	12.28	2.41	12.51	2.22	12.88	2.78	0.79	
最善の努力	11.74	1.88	11.63	2.07	11.83	2.80	13.53	2.45	3.22*	4>1、4>2、4>3
責任ある行動	12.11	1.73	12.12	2.21	12.14	2.61	14.18	1.88	4.60**	4>1、4>2、4>3
謙虚な心	12.11	1.79	11.79	2.23	11.77	1.99	13.06	2.41	1.81	
体調管理	9.80	1.80	10.05	1.96	10.41	1.78	10.41	3.62	0.54	

*p<.05　**p<.01

表7　ポジションとライフスキル各側面の比較

	1：投手 (n＝38)		2：捕手 (n＝14)		3：内野手 (n＝48)		4：外野手 (n＝41)		F値	多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
ストレスマネジメント	10.61	2.81	11.50	2.53	11.50	1.68	11.27	3.13	0.98	
目標設定	9.76	2.78	10.43	1.91	10.04	2.13	9.88	2.56	0.29	
考える力	11.32	1.96	11.29	2.30	11.71	1.80	11.90	2.40	0.67	
感謝する心	12.63	1.88	13.57	2.21	13.06	1.79	13.68	2.06	2.19	
コミュニケーション	11.66	2.23	12.43	1.83	11.98	2.14	12.51	2.53	1.08	
礼儀・マナー	12.21	2.43	12.71	2.30	12.92	2.00	12.66	2.29	0.72	
最善の努力	11.29	2.30	12.36	1.39	12.21	1.98	12.10	2.84	1.44	
責任ある行動	11.74	2.15	12.93	1.82	12.38	2.03	12.76	2.54	1.77	
謙虚な心	11.58	2.30	11.71	1.98	12.08	1.91	12.54	2.04	1.55	
体調管理	9.63	2.26	9.79	2.08	10.54	1.99	10.05	2.13	1.43	

表8　競技レベルとライフスキル各側面の比較

	1：レギュラー (n＝20)		2：準レギュラー (n＝35)		3：補欠 (n＝86)		F値	多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
ストレスマネジメント	10.55	3.05	11.43	2.24	11.24	2.57	0.79	
目標設定	10.45	2.14	10.83	2.08	9.49	2.50	4.54*	2>3
考える力	12.45	2.48	12.20	2.17	11.19	1.83	5.15**	1>3、2>3
感謝する心	13.65	2.08	13.09	1.82	13.10	1.99	0.68	
コミュニケーション	12.60	2.98	11.97	1.77	12.02	2.26	0.59	
礼儀・マナー	12.85	3.35	12.74	1.90	12.53	2.05	0.22	
最善の努力	12.95	3.32	11.91	2.15	11.72	2.06	2.33	
責任ある行動	13.15	3.15	12.40	2.03	12.17	2.02	1.58	
謙虚な心	12.85	2.37	12.09	1.81	11.84	2.09	1.97	
体調管理	10.70	2.85	9.74	2.24	10.07	1.87	1.30	

*p<.05　**p<.01

６　考察

１）所属リーグとライフスキル各側面の関連

野球においては、一人ひとりのプレーの精度やプレーヤー同士の連携が競技成績に大きく影響していると思われる。例えば、プレー中にミスが起こった場合は、その後のプレーに悪影響を及ぼさないためにも、失敗の原因を突き止め素早く改善策を見出すことや、失敗を挽回するためにより精度の高いプレーでチームに貢献しようと努めることが予想される。

今回、1 部リーグ所属者が 2 部リーグ所属者よりも高い傾向があった『責任ある行動』とは、島本・米川によると [7]、日々の生活場面において何か失敗をしてしまったとき、そこから目を背けるのではなく真正面から対峙し、その失敗を果敢に克服しようとする能力を表しているとされる。2 部リーグよりもレベルの高いチームが集まる 1 部リーグでは、勝利するためにはミスを少なくすることと同様に、ミスをした時に挽回しようとする強い精神力も必要であることが推測される。このことから 1 部リーグ所属者が 2 部リーグ所属者よりも高い傾向があると考える。

２）　役職経験の有無とライフスキル各側面の関連

役職経験の有無とライフスキル各側面の平均値は、いずれも経験者が未経験者よりも高い値を示した。このことから、競技を続けていく上でキャプテンまたは副キャプテンのように責任ある役職を経験することは、選手のライフスキルを高めていく可能性があると考えられる。また、ライフスキル各側面の中でも、『コミュニケーション』、『最善の努力』、『責任ある行動』、『謙虚な心』について経験者が未経験者よりも有意に高い値を示した。

この結果によると、『コミュニケーション』において、役職経験者は監督と部員、もしくは部員同士の信頼関係を築く上で、組織のまとめ役となり、監督や仲間と頻繁にコミュニケーションを取っていると推察できることから、未経験者よりも高い値を示したと考えられる。

次に、島本・米川は [7]、『最善の努力』とは、辛く厳しい状況の中でも、忍耐強く努力し続けることができる能力を表していると述べている。役職経験者は組織をまとめる上で困難な状況が幾度も訪れたことが予想される。そのような状況の中でも、決して消極的になることなく、組織の勝利や自身のパフォーマンスの向上に努めていたと推察されることから、未経験者よりも『最善の努力』において高い値を示したと考えらえる。

次に、『責任ある行動』では、役職経験者は組織の代表であるため、組織の課題に対峙する場面が未経験者よりも多いことが推察される。そのため、役職経験者は未経験者よりも組織の課題を把握することや解決していく経験が豊富なことから高い値を示したと考えられる。

次に、『謙虚な心』では、役職経験者は組織の中でも責任のある立場にあり、常に組織全体を把握することが求められる。そのため、自分自身を客観的に捉えることができるという点で未経験者よりも高い値を示したと考えられる。

３）大学とライフスキル各側面の関連

吉田・徳永によると [8]、競技において好成績を収めることがライフスキルの獲得に望ましい影響を及ぼすと指摘されている。今回の調査は、平成 28 年度春季リーグ後の 6 月〜8 月にかけて行われていることから、大学間の比較にはリーグ戦の結果が影響していることも考えられる。今回対象とした大学の平成 28 年度春季リーグの結果は、1 部リーグの 2 校、2 部リーグの 2 校ともに 3 位以下の成績であったことから、所属リーグの違いはあるが、大学間のライフスキルに有意な差が現れなかったと推察される。

４）学年とライフスキル各側面の関連

学年とライフスキル各側面の比較では、『考える力』、

『感謝する心』、『最善の努力』、『責任ある行動』において有意な差がみられた。山本ほかは[9]、『考える力』とは「あれこれと指示を出さなくても、次にどうすればよいかを考えることができる」等、自己の課題の解決策を考え、成功や失敗の原因を導き出すというスキルを示していると述べている。4 年生が 3 年生以下よりも有意に高い値を示したことは、競技の経験年数が長く分析力が身に付いていることや、上級生がいないことから状況に応じて判断し下級生に指示を出す機会が多いためであると推察される。

次に、島本・米川は[7]、『感謝する心』とはアスリートに求められる他のスキルとは異なり、第三者への配慮を示す項目から構成されていると述べている。また、高校生ゴルフ競技者を対象としたライフスキルと競技成績との関連についての研究において、競技成績を上位群、中間群、下位群に分け検証したところ、『感謝する心』において中間群が上位群よりも有意に高い値を示したと報告している。すなわち、トップレベルに接近する選手は競技成績への関心の程度が特に高いと考えられ、競技成績との関連性が特に低いと思われる第三者への配慮が、中間群と比較して有意に低かったと推察している。このことから、『感謝する心』において 4 年生が 2 年生と 3 年生よりも有意に高い値を示したことは、4 年生の中に春季リーグ戦後に引退した学生がいたことや、2 年生と 3 年生は今後の組織を担う中心的な存在として競技成績について関心が特に高く、第三者への配慮である『感謝する心』が低い値を示したためであると思われる。

次に、『最善の努力』と『責任ある行動』は先述した通り忍耐強く努力し続ける能力や、失敗を果敢に克服しようとする能力を表している。4 年生は長い学生競技生活の中で多くの困難に対峙してきたと思われることから、他学年に比べて高い値を示したと思われる。

5）ポジションとライフスキル各側面の関連

ポジションとライフスキル各側面の比較では、『感謝する心』において、外野手が投手よりも高い傾向があった。先述した通り、『感謝する心』は第三者への配慮を示す項目から構成されている。投手は野球のゲームにおける役割が大変大きく、功力は[10]、野球の試合における「勝敗のカギは 70%が投手力にある」と述べている。すなわち、投手というポジションは競技成績に強い関連があり、投手自身もそれを強く自覚していることから競技成績への関心が高く、直接成績に影響がないと思われる『感謝する心』について低い値を示したのではないかと思われる。一方、外野手は守備の際には打者から最も遠くに位置し、プレー全体を把握できるポジションにいる。

6）競技レベルとライフスキル各側面の関連

競技レベルとライフスキル各側面の比較では、『目標設定』において準レギュラーが補欠よりも有意に高い値を示し、『考える力』においてレギュラー、準レギュラーがそれぞれ補欠よりも有意に高い値を示した。島本・米川によると[7]、『目標設定』とは抽象的ではない具体的な目標を設定することができること、また、最終的な目標の達成に向けて短期、中期、長期目標という段階的な目標を設定することができる能力を表していると述べている。準レギュラーが補欠よりも有意に高い値を示したことは、準レギュラーは試合に勝つことや自身のプレーに対する目標以外にも組織内でポジションを確保することなど、設定できる目標が多く存在することが推測される。また、目標設定は競技者自身の動機づけを高めることに強く作用していることが推察されるため、補欠は目標設定をはじめとした多くの側面で低い値を示したと思われる。

次に『考える力』では、レギュラーと準レギュラーは試合の中で自己の判断でプレーする機会が大変多く存在する。数多くの選択肢の中から瞬時に適切なプレーを選択し実行することで、『考える力』において高い値を示したと思われる。

７　まとめ

本研究では、大学硬式野球競技者を対象として、個人の役職経験の有無やポジション、競技レベルが競技者のライフスキル獲得にどのような影響を与えているのか検討を行った。その結果、特にライフスキルの『コミュニケーション』、『最善の努力』、『責任ある行動』、『謙虚な心』とキャプテンや副キャプテンなどの役職経験との間に有意な差が認められた。また、競技レベルにおいては、ライフスキルの『目標設定』において準レギュラーが補欠よりも有意に高い値を示し、『考える力』においてレギュラーと準レギュラーが補欠よりも有意に高い値を示した。このことから、補欠の選手がレギュラー選手を目指す上で、『目標設定』と『考える力』を中心とした取り組みを行っていくことが肝要であると思われた。

８　今後の課題

本研究では、大学硬式野球競技者の一時点での横断データに基づき分析を実施したが、今後は一定期間の縦断調査を通じてライフスキル獲得の変容について検討していく必要がある。また、先述のとおり競技成績がライフスキルの獲得に影響することを考慮すると、調査の時期についても検討しなければならない。そして、長期的には、複数の種目においてライフスキルを獲得していくための教育プログラムの開発についても検討を進めていく必要があるだろう。

９　引用文献

1)WHO：川畑徹朗ほか監訳；WHO ライフスキル教育，大修館書店：9-30，1997

2)川畑徹朗；健康教育とライフスキル学習の新提案-個性を伸ばし、自己実現を支援する-，学校運営研究，36(9)：14-17，1997

3)Murakami,k.etal；The relationship between health-related life skills and sport experience for adolescents，Human Performance Measurement，1：1-14，2004

4)清水聖志人・島本好平；男子大学生レスリング競技者におけるライフスキルと競技成績との関連，体育経営管理論集，4：47-53，2012

5)島本好平・米川直樹；運動部活動におけるスポーツ経験がライフスキルの獲得に与える影響－青年期におけるゴルフ競技者を対象として－，三重大学教育学部研究紀要，65：327-333，2014

6)島本好平ほか；アスリートに求められる雷雨スキルの評価-大学生アスリートを対象とした尺度開発，スポーツ心理学研究，40(1)：13-30，2013

7)島本好平・米川直樹；高校生ゴルフ競技者におけるライフスキルと競技成績との関連，体育学研究，59：817-827，2014

8)吉田安宏・徳永幹雄；健康と競技のスポーツ心理，不昧堂出版：156-166，2002

9)山本浩二ほか；大学生柔道選手におけるライフスキル獲得とキャリア成熟との関連，神戸医療福祉大学紀要，17(1)：107-115，2016

10)功力靖雄；左腕投手の有利、不利に関する研究，大学体育研究，9：17-26，1987

１０　参考文献

1)平井博志ほか；大学期における課外活動の種類とライフスキルの関係，大学体育学，9：117-125，2012

2)島本好平・石井源信；大学生における日常生活スキル尺度の開発，教育心理学研究，54：211-221，2006

3)津田忠雄；大学教育とスポーツ競技を通じての教育－大学生アスリートとライフスキル教育プログラムの展開－，近畿大学健康スポーツ教育センター紀要，6(1)：13-25，2007

4)中井聖ほか；福祉系大学生のライフスキルとスポーツ経験の関係，近畿医療福祉大学紀要，12：87-95，2011

5)松野光範・横山勝彦；「ライフスキル教育」開発プロジェクトの必要性－スポーツ選手を視点に－，同志社スポーツ健康科学，1：1-7，2009

6)松野光範ほか；「ライフスキル教育」開発プロジェクトの実践と課題 - 硬式野球部の取り組みを事例として - ，同志社スポーツ健康科学，2：61-72，2010
7)上野耕平；ユース選手を対象としたライフスキルプログラム，体育の科学，55(2)：101-105，2005
8)杉山佳生ほか；学校体育授業を通じたライフスキル教育の現状と展望，健康科学，30：1-9，2008
9)上野耕平・中込四郎；運動部活動への参加による生徒のライフスキル獲得に関する研究，体育学研究，43：33-42，1998
10)東海林祐子；ライフスキルプログラムの実践，Sportsmedicine，21(7)：36-38，2009
11)齊藤博久；野球を通じて、自分自身を成長させる-大学野球のライフスキルプログラムの実践例-，Sportsmedicine，23(2)：36-37，2011
12)川村卓ほか；野球の投手における試合の制球力に関する研究-高校野球地方大会を例に-，大学体育研究，26：15-21，2004

Effects of Baseball Players' Experience on Life Skills : Focusing on an Intercollegiate League

Yusuke OKAZAKI　Takahiro IGAWA　Kazunori FUKUDA

abstract : The purpose of this study was to examine effects of baseball players' experiences on acquiring life skills, focusing on an intercollegiate league. A comparative analysis framework was designed; scores of life skills were compared focusing on four: 1) between universities, 2) between academic grade 3) between baseball positions, and 4) between levels of baseball skills. Data were collected from baseball teams of four universities in a same region. The employable samples for analysis were 141. As a result of the comparative analysis, significant differences were demonstrated particularly between academic grade and levels of baseball skills.